



ひと、ひらき、きらめく



【特集】
快適で便利な暮らしからサステナブルな社会へ

【むもんビッグニュース】
「自然栽培パーティ感謝祭 in 沖縄」開催！

【教えて！ドクターM】
健康な社会

2023 Winter

無門福祉会広報 vol.150
〔発行〕社会福祉法人無門福祉会
〔発行責任者〕三浦孝司



自然食の店
「サン・スマイル」

— むもんに縁のあるお店や団体を紹介します —

むもんと
縁

無門福祉会も参加している自然栽培パーティの仲間で、全国の自然栽培の野菜や米などの流通を行っており、むもんも出荷しています。また、販売に関する知識も豊富なので、梱包や保管の仕方などのアドバイスももらっています。

Concept お店の紹介

埼玉県ふじみ野市に店舗・出荷センターがあります。店舗では無肥料自然栽培の野菜、お米、加工品やオーガニックコットン衣類、ナ



チュラルコスメ等、約2,500アイテムを販売しています。他には全国約150件の農家さんと契約し全国への野菜宅配セット販売、卸売業、商品開発、出版、ブータンでの海外事業などを行われています。

編集後記

今年度の広報では無門福祉会が考える新しい社会的価値をテーマに特集してきました。無門福祉会が36年、障がい者支援と向き合い、「みんなの幸せ」について考えた中で出てきた社会が幸せに暮らすための価値観ともいえると思います。今年度のテーマを振り返り、こういう社会になると良いと思う人がたくさんいるのではないかと感じています。理想のまま終わってしまうのではなく、一人一人が行動に移すことで社会が変わっていくと思います。まずは自分も何かが行動に移そうと、そう感じた特集テーマでした。(鈴木)



Thought 思い

永続性を求めて栽培されたもの、作られたものを、人はおいしいと感じる感性を持っている。環境の持続可能性や健康維持につながるのではないかと意義から「おいしいはしあわせ」を大切にしています。わたしたちの食材は大量生産、大量消費には向いていません。全国の生産者、食品メーカーが各地の自然や食材の命と向き合って生まれたものばかりです。その想いを皆様と共有し幸せのお役に立てたらと願った会社です。農福の自然栽培で生まれた野菜を食べた方は、味はもちろん好評ですが、とても純粋で元気になるお野菜だという感想を多くいただいています。これからも、無門で栽培された野菜を含む、自然栽培のお野菜を多くの方々に食べていただき、この感動に触れてほしいと願っています！(サン・スマイル代表松浦さまより)

Thought その他

サン・スマイルでは太極拳・八極拳教室、指圧ヒーリング治療院、放射能測定、店舗でのお話会などの実施。ご依頼があれば代表の松浦智紀さんが、自然栽培や食、免疫UP等につながる講演会を全国どこでも行っているそうです。無肥料自然栽培に関わる深い話や、おすすめの商品を紹介している『サン・スマイル通信』を発行しており、バックナンバーがホームページ内で読めます。ぜひご覧ください！

Info 情報

～おいしいはしあわせ～ サン・スマイル

住所 埼玉県ふじみ野市苗間1-15-27

TEL 049-264-1903 FAX 049-264-1914

営業時間 10:00~19:00(日曜定休/祝日は営業)

H P https://www.sunsmile.org

野菜の定期宅配を全国的に行っており、大募集中です！



サン・スマイルHP



阪田

今の社会はどこか他人任せで、我が事にならない。ネット上の仮想空間でのコミュニケーションが進化しているけど、やはり仮想空間で現実と離れている。現実の人の営みは、実際の人と人とのふれあいによって感じる温かみだとかそういうものだと思っているし、そういったことを感じるの中で、我が事が生まれてくるんだと思う。

磯部

そういう意味では、自然栽培は生きることに直接つながるので、みんなの我が事になりやすいと思いますし、自然は自分で感じる場面が多いので、本来の自分に向き合えるのかなとも思います。農を介したコミュニケーションはすごく自然で、昔からコミュニティづくりに役立っていたのだと思います。自然とともに生きることに向き合うことがサステナブルな社会のヒントになってくると思います。

阪田

人ってやっぱり一人では生きられないから、みんなで生きてくことを考えるっていうことはすごく大事なことです。その中で生きることは食べることで、食べることをみんなでどうしたいかを考えることでサステナブルな社会が見えてくるんじゃないかな。



生きることにシンプルであると必然的に私たちが暮らす地球のことや地域のこと、仲間のこと、健康のことなどを考えます。持続可能な社会の実現には一人一人が社会に対して我が事であることが大事。無門福祉会では障がい者個人の幸せを考えるときに必ず自分自身の生きることに向き合うことになります。自分自身が生きる社会を自分がどうしたいか。そこに向けて行動することで喜びや楽しみを感じることで生きがいになっていく。それは誰しもがそうであると思い、他人任せじゃなく、生きることにもう一度一人一人が向き合えるように無門福祉会は社会に幸せのあり方を発信していきたいと思ひます。

新しい社会的価値

シリーズ
New Social Values

04

今年度は無門福祉会が考える「新しい社会的価値」を職員で話し合い、座談会形式でお伝えしてきましたが、今号は無門福祉会開設当初から第一線で活躍されている阪田常務理事と無門福祉会の中心事業である自然栽培を推進し、自然栽培パーティの理事長でもある磯部事務局長の二人に無門福祉会の考える「新しい社会的価値」について話し合ってみました。



座談会
テーマ

快適で便利な暮らしからサステナブルな社会へ

社会が快適で便利になったことで私たちの豊かさは経済発展とともにあると思う人が増えてきています。便利になりすぎてそもそも社会の豊かさを考えることが少なくなっているのかもしれない。持続可能な社会へ向けて世界では様々な目標を定めて、誰一人取り残さない取り組みを始めています。無門福祉会が考えるサステナブルな社会の実現に向けて大事なことは？ そんな内容でお二人にお話し頂きました。

阪田

私は、先日60歳になりましたが、これからまだまだやりたいことがたくさんあります。なぜかという社会では困りごとが増えていて、内容もどんどん複雑化しているから、なんとかしないといけないと思っています。今と昔では、幸せというものの価値観がずれてきていて、ものに溢れ豊かになったとは思いますが、生きることの丁寧さやシンプルさが無くなってきたように感じるね。

磯部

私は、自然と関わるのが減り、情報社会が進んだことがひとつの問題だと感じています。現実的な世界から離れ、一方的な情報が入ってきて、自分の中の気持ちに向き合う余裕がなくなり、自分がどうしたいのかということ自体が持ちづらい状況になっていると思います。そんな中でのサステナブルな社会は考えにくいですね。



常務理事
阪田



事務局長
磯部



『自然栽培パーティ感謝祭 in 沖縄』開催!

2022年11月23日に沖縄県南城市で「自然栽培パーティ感謝祭」が開催された。感謝祭は1年の恵みや地域の方々への感謝、そして日頃の農福師のがんばりを称える、一年に一回のイベントで、これまでコロナの影響で2年間オンライン開催だったが、今年は有観客でフォーラムと同時開催でokinawa organic marketが行われた。

2年ぶりに全国から仲間が集まり開催されるとあって農福師も実行委員として打ち合わせに参加し、司会進行や出し物の企画など全国の仲間と共に当日を盛り上げようと機運を高めていた。



無門福祉会ではフォーラムに合わせ、沖縄観光も兼ねてツアーを計画し、利用者・保護者・職員を含め20名の参加があった。

愛知とはまた違う、沖縄の自然栽培パーティの仲間の活動紹介や沖縄独特の気候に合わせた栽培の工夫や新たな取り組みを始める事業所の話を興味深く聞いていた。

また、この日公開となった自然栽培パーティのドキュメンタリー映画「種まいて水やって自然栽培パーティ」の上映会が行われ、上映後会場からは感動の声が聞かれ、無門福祉会の出演者たちも壇上に上がり感謝の言葉を述べられた。

okinawa organic marketは愛知県名古屋市で東別院暮らしの朝市を運営しているイニミックビレッジが監修し、こだわりの野菜やスイーツ、雑貨がたくさん並び、ライブスペースも用意され賑やかな会場となっていた。当日、販売開始となった自然栽培パーティオリジナル商品のサツマイモビールや全国6施設のサツマイモを加工した干し芋は大好評だった。

フォーラムの最後には沖縄らしくエイサーをみんなで踊り、施設の利用者・職員も年に一度、全国の仲間と会えたことを楽しんでた。

全国に仲間がいる自然栽培パーティだ



今年で4回目となる農福師アワードも実施され、15名の新たな農福師が誕生した。参加した無門福祉会利用者は「来年は賞状をもらいたい」と今後の活躍を誓っていた。



自然栽培パーティのサツマイモチャレンジ企画で完成したオリジナルクラフトビール

から出来るこのイベント。全国の農福師がそれぞれの地域で頑張る姿や話を聞けて、無門福祉会の農福師たちも大いに刺激を受けて日々の農作業を頑張るモチベーションに繋がっている。

みんなと一緒に楽しめる、そんなことを感じるパーティ感謝祭となっていた。



ムモンガ

無門の裏山に生息する
ムモンガの妖精。
自然栽培で作った
野菜や果物が大好物。



ドクターM

この道30年の
自然栽培博士。
トレードマークは頭のM。



今回のテーマ

「健康な社会」

今年度は健康に生きるためにはというテーマで免疫力や抗酸化力を高めるために必要なこと、そもそもウイルスや細菌って何だろうという体の健康についてドクターMに聞いてきましたが、今回は「健康な社会」をテーマに個々の健康も大事だけど社会が健康でないと意味がないというテーマでドクターMに聞いてみます。

社会の健康が大事ってどういうこと?

社会の健康と言われるとピンとこないかもしれませんが、例えば体が健康で100歳まで生きることが出来るとしても、戦争のように突然、私たちの命が危険にさらされることだってあるし、治安が悪化すれば犯罪に巻き込まれることだってある。公害のように環境汚染によって病気になる可能性だってある。そういう社会の健全さも自分の健康と切り離して考えてはいけないうことなんじゃ。






現に戦争は今でも起きていて他人事ではなくなってきているよね。だけど僕たちに出来ることってあるのかな?

運動・睡眠・食事に気を付けることは自分の気持ち次第で出来ると思うんじやが、社会のこととなると難しく感じるな。じゃが同じように自分の気持ちで出来る範囲のことから始めることが大事なんじやな。例えば、むもんは法人として地域や社会の課題に目を向けて健全な社会づくりに取り組んでおる。そういった活動に参加したり、道に落ちてるゴミを拾うとか人に対して優しくしようとかそういうことの積み重ねで、自分が関ることが出来る範囲を健全な環境となるように変えていけると自分自身も健康でいられるんじゃないかな。

平和で豊かな社会に出来たら僕たちは健康に暮らすことが出来るんだね。

MY 行動宣言

生物多様性を守るために
私たちにできる5つのアクション!

- Act 1  地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。
- Act 2  自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。
- Act 3  自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。
- Act 4  生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。
- Act 5  エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

つなげよう、 支えよう 森里川海

無門福祉会は環境省の森里川海プロジェクトに賛同しています。このプロジェクトは国民全体で「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目指しています。このコーナーでは MY 行動宣言に沿って、地元の旬の味覚や素晴らしい自然をお届けします。



真山 岳佳

- むもんカンパニー青い空
- 勤続2年

私は釣りが趣味でシーズン中は各地の渓流ヘアマゴ、イワナ、ニジマス、ヤマメなどの渓流魚を求めて旅に出ることがあります。

冬の間、渓流釣りはシーズンオフですが三河湖にニジマスを釣りに行ってきました。

川のせせらぎ、鳥や鹿の鳴き声、冬ならではの冷たい空気と木漏れ日の暖かさを感じながら、大自然の中での釣りしてる感覚はなんとも言えない良さがあります。

釣れた魚は塩焼きで美味しく頂きます。これがまた絶品です。

久しぶりの釣りでしたが自然を感じることが出来て大満足でした!

釣りは一生ものの趣味で自分に合っていると思います。

50歳、60歳になっても美しい川や静かな自然を汚さず、大切に守ってきたいと思いました。



野沢 涼香

- 事務局所属
- 勤続8年

12月に入ってから寒さが厳しくなり、年末間近に体調を崩してしまいました。

より一層体調管理に気を付けようと思い、正月休みに無門の大根とこいけやクリエイトさんで作っている蜂蜜で「はちみつ大根」を作ってみました。

名前は知っていたのですがどんなものか調べてみた所、江戸時代から民間療法として作られていたそうで大根と蜂蜜には腸の働きを穏やかにしたり呼吸器官等の粘膜を潤す効果などがあるのでちょっとした漢方として使われていたそうです。作り方も簡単で、風邪予防におすすめです。

昔ながらの知恵や工夫を学び、健康食も詳しく知ると、自然の恵みを取り入れることが一番の薬だなと感じます。



MUMON
農で広がる 福祉の輪

いっしょが たのしい

Part
03

| トヨタ自動車 ボランティア |

地元企業も一緒に 休耕地再生

むもんでは休耕地を再生し、自然栽培の活動を広げていきたいと思う一方、福祉だけの力ではできることに限界がありました。農作業をお手伝いしてくれる人をはじめ、農業機械などに詳しく、操作できる人がいると助かる。そんな思いのもと、トヨタ自動車にボランティアを募集。5年前から農作業の忙しい5月～11月毎週土曜日の午前中に障がいの方と一緒に汗をかいて野菜を作っています。新しく増えた休耕地10アールから始めた活動も現在では田んぼだけでなく畑も含めて約50アールほどに増えて休耕地解消の大きな力になっています。



農業に興味がある、福祉の分野のサポートをしたいなど様々なきっかけで集まったボランティアさん。続けるうちに皆さん感じているのが野菜作りも障がい者との交流も自然に。お米が実らないというつらい出来事も一緒に乗り越えて、次こそはとボランティアさんからエネルギーをもらっています。企業と連携し畑でみんなで農業を楽しむことで自然とみんながつながっていく。新しい農業の形が広がっています。

自然がつなげる 楽しいボランティア

社会福祉法人 無門福祉会は、障がいのある人が、地域において生涯安心し、その人らしく暮らすことができることを願って日々活動しています。

社会福祉法人 無門福祉会

豊田市高町東山7-43
TEL:0565-45-7883

